

150年の響き 中高生体感

ドイツの名門「ヴァッパール交響楽団」の10月倉敷公演前に、倉敷市の中高生2人がドイツ西部の楽団の地元を訪れ、音楽を大切にしている市民の暮らしに触れてきた。(鈴木裕)

倉敷の2人 独の楽団訪問

同市立東中学校2年の長尾賢君(14)と、県立倉敷天城高校1年の岡田真実子さん(16)。世界的演奏家の倉敷公演を主催する「くらしきコンサート」(大原れいこ代表)が3月、ドイツ北西部ヴァッパール市へ派遣した。楽団は150年近い歴史を

持ち、クララ・シューマンやブラームスらが出演。指揮者のエーリッヒ・クライバーやクレンペラーらがキャリアをスタートさせた。2004年からは日本人指揮者の上岡敏之さん(49)が率いている。楽団員宅で3泊し、演奏会やリハーサルを見学。上岡さ



んや楽団員、ピーター・ユング市長や市民を取材した。毎回、演奏会に来る市長は「市が財政難でも予算は削らない」と答え、家族連れ、普段

着で楽しむ市民の誰もが「楽団は町の宝物」「わが町の楽団が一番」と自慢した。

2人とも「日本では文化予算が削られるのに、行政、市民一体となって楽団を支援している」と驚いたという。

倉敷公演は10月16日午後7時、倉敷市民会館。曲目はモーツァルト「交響曲第28番ハ長調」、マーラー「交響曲第5番嬰ハ短調」。県内在住の中高校生ら200人を無料招待する(応募締め切り11月22日消印有効)。問い合わせはくらしきコンサート(086・4222・2140)。

上岡敏之さん(左)をインタビューする長尾賢君と岡田真実子さん(くらしきコンサート提供)